

2010年度

職業性ストレス簡易調査 結果報告書

〇〇〇〇会社 御中

1. 調査実施概要について

- | | |
|---------|---|
| 1. 調査内容 | 職業性ストレス簡易調査 |
| 2. 調査目的 | 心の健康づくり活動の充実およびメンタルヘルス不調予防を重視した体制づくりを図るため、従業員に対するセルフケアの支援と「こころの健康づくり活動」の周知および次年度こころの健康づくり活動プランの作成を行うため、従業員の職業性ストレスの実態把握を行う。 |
| 3. 実施期間 | 2010/4/8 ~ 2010/4/26 |
| 4. 対象者 | 〇〇〇〇会社 御中 |
| 5. 実施手順 | イ. 事前準備
① ご利用申込

ロ. 調査票の配布
① 調査票梱包しHSCからご担当者様に送付
(調査票セット)
・調査票(人数分)
・調査票回収用封筒(人数分)
② ご担当者様より従業員様へ配布

ハ. 調査票の回収
① 回収期限までに調査票を回収用封筒に入れ封印しご担当者様へ提出
② 提出された封印済み調査票をご担当者様からHSCへ送付

ニ. 結果票の配送
① 結果票を取りまとめ、ご担当者様に送付
② ご担当者様より従業員様へ結果票を配布 |

2. 調査実施人数

実施者の人数は以下の通りとなっており、

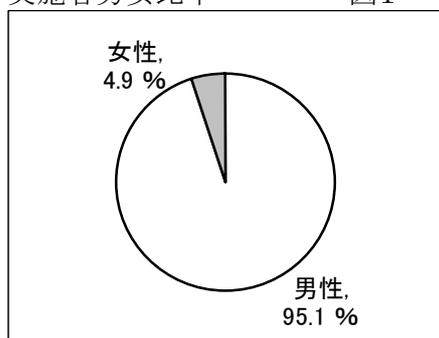
男性では 40歳代 の受診者を中心とした構成比を、

女性では 30歳代 の受診者を中心とした構成比を示しております。(表2・図2・図3参照)

実施人数集計 表1

性別	対象者人数	受診者数	実施率
男性	345名	328名	95%
女性	19名	17名	89%
合計	364名	345名	95%

実施者男女比率 図1



実施者年齢帯別人数集計

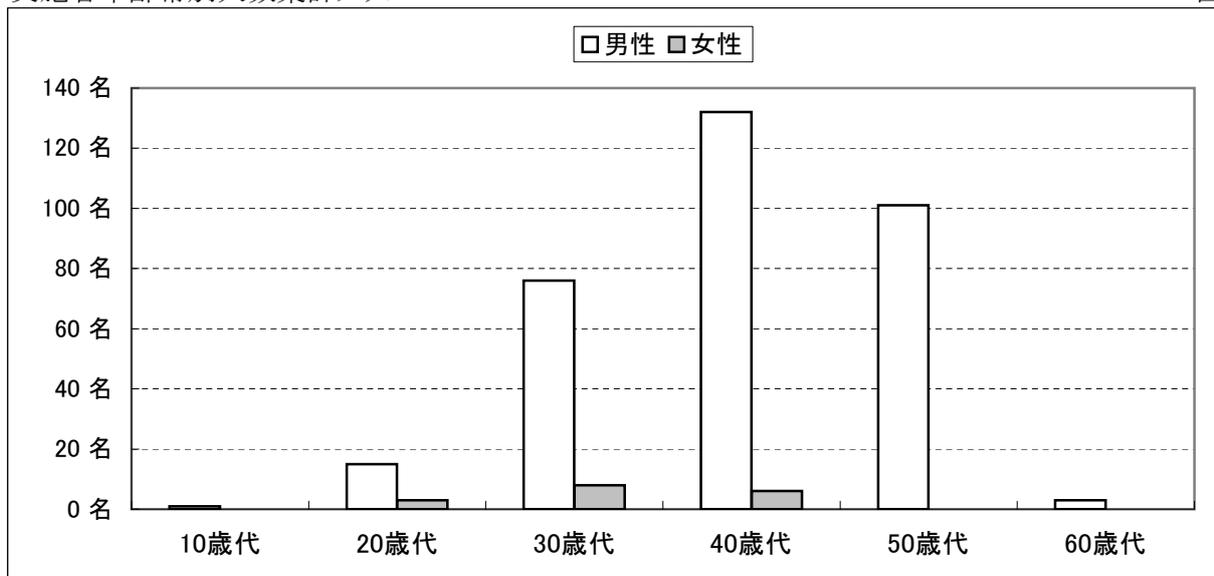
表2

性別	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
男性	1名	15名	76名	132名	101名	3名
女性	0名	3名	8名	6名	0名	0名
合計	1名	18名	84名	138名	101名	3名

※ 年齢は2010年度末現在で算出

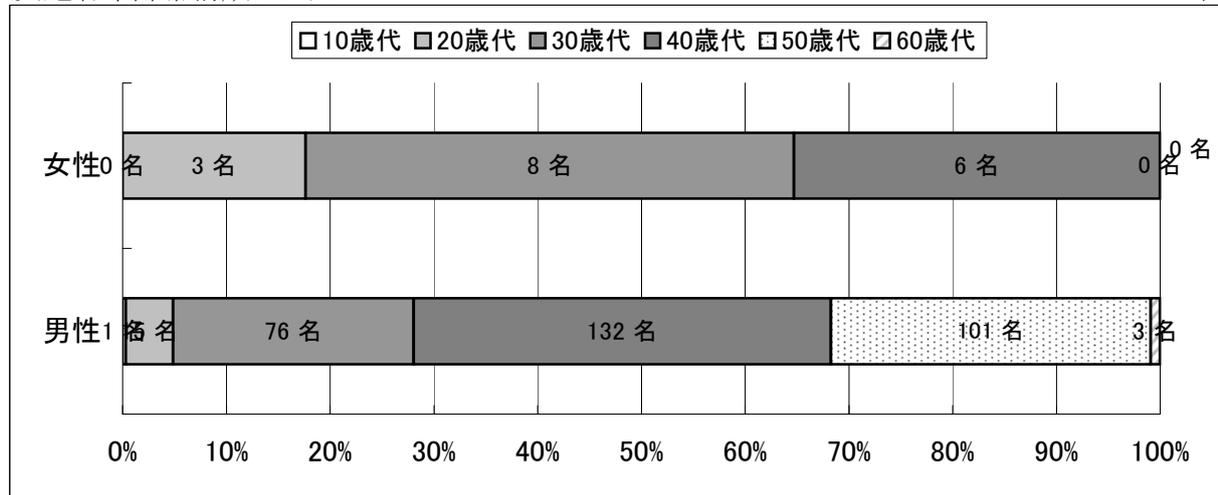
実施者年齢帯別人数集計グラフ

図2



実施者年齢帯構成比グラフ

図3



3. ストレスの原因となる職業性の因子分析

仕事のストレス要因に関する尺度は次の9つの項目で評価されます。

項目	設問No	項目	設問No
心理的な仕事の量的負担	①-1~3	心理的な仕事の質的負担	①-4~6
身体的負担	①-7	コントロール	①-8~10
技能の活用	①-11	対人関係	①-12~14
職場環境	①-15	仕事の適正度	①-16
働きがい	①-17		

個人に対する評価スケールは5段階となっており、各点数とストレス度合いは下記表3の通りとなっております。

表3

評価得点	5点	4点	3点	2点	1点
ストレス度	高い	やや高い	普通	やや低い	低い

集団集計は上記表3に従い算出した個人評価得点を、項目別で平均値算出し集団特性を考察しております。

● ストレスの原因となる職業性の因子集計

ストレスの原因となる職業性の因子として、「身体的負担」・「働きがい」・「職場環境」の項目の順にストレス度合いが高くなっています。(表4・図4参照)

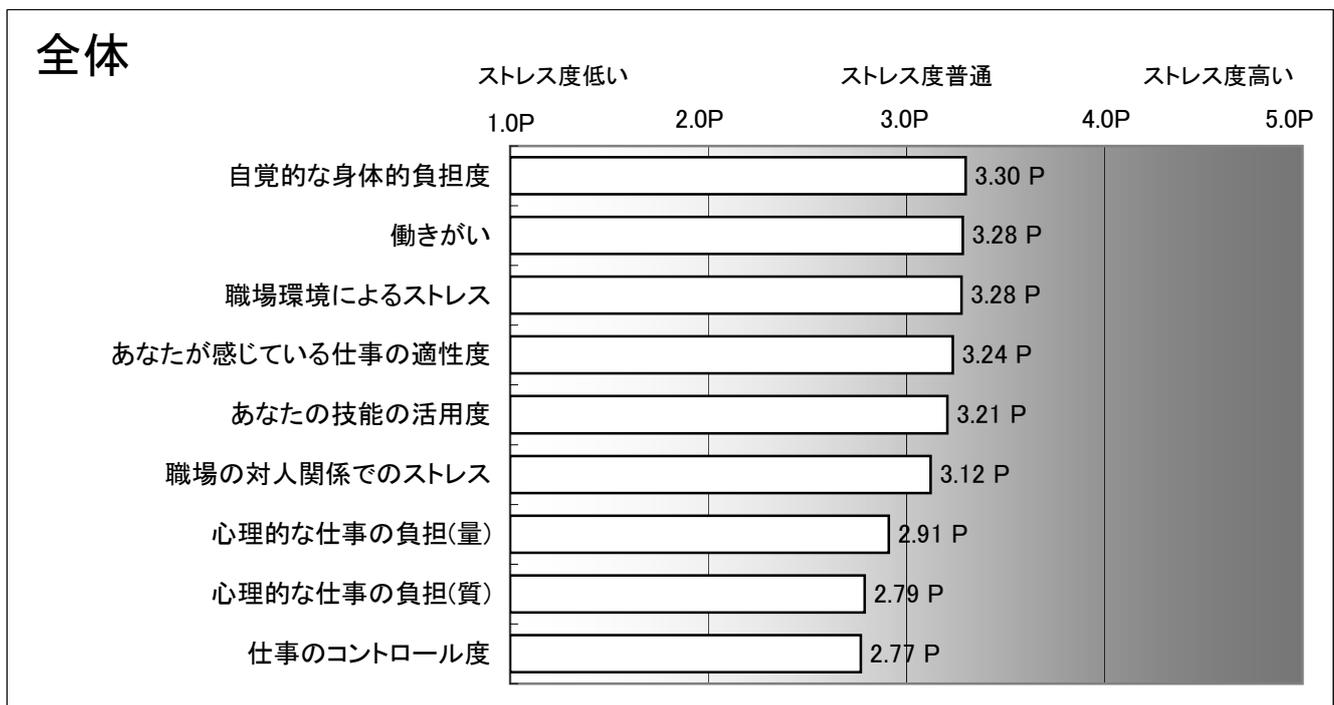
ストレスの原因となる職業性の因子 項目別評価平均値集計

表4

	心理的な仕事の負担(量)	心理的な仕事の負担(質)	自覚的な身体的負担度	職場の対人関係でのストレス	職場環境によるストレス	仕事のコントロール度	あなたの技能の活用度	あなたが感じている仕事の適性度	働きがい
男性	2.92 P	2.79 P	3.33 P	3.14 P	3.31 P	2.80 P	3.21 P	3.24 P	3.30 P
女性	2.71 P	2.71 P	2.76 P	2.71 P	2.76 P	2.18 P	3.18 P	3.06 P	3.00 P
全体	2.91 P	2.79 P	3.30 P	3.12 P	3.28 P	2.77 P	3.21 P	3.24 P	3.28 P

ストレスの原因となる職業性の因子 項目別評価平均値集計 (実施者全体)

図4



4. ストレスによって起こる心身の反応因子分析

ストレス反応については、心理的ストレス反応と身体的ストレス反応について測定できます。心理的ストレス反応の尺度は次の5つ、身体的ストレス反応は次の1つの項目で評価されます。

心理的ストレス反応の項目	設問No	身体的ストレス反応の項目	設問No
【ポジティブ反応】 活気	②-1~3	身体愁訴	②-19~29
【ネガティブ反応】 イライラ感	②-4~6		
【ネガティブ反応】 疲労感	②-7~9		
【ネガティブ反応】 不安感	②-10~12		
【ネガティブ反応】 抑うつ感	②-13~18		

個人に対する評価スケールは5段階となっており、各点数とストレス度合いは下記表5の通りとなっております。

表5

評価得点	5点	4点	3点	2点	1点
ストレス度	高い	やや高い	普通	やや低い	低い

集団集計は上記表5に従い算出した個人評価得点を、項目別で平均値算出し集団特性を考察しております。

● ストレスによって起こる心身の反応因子集計

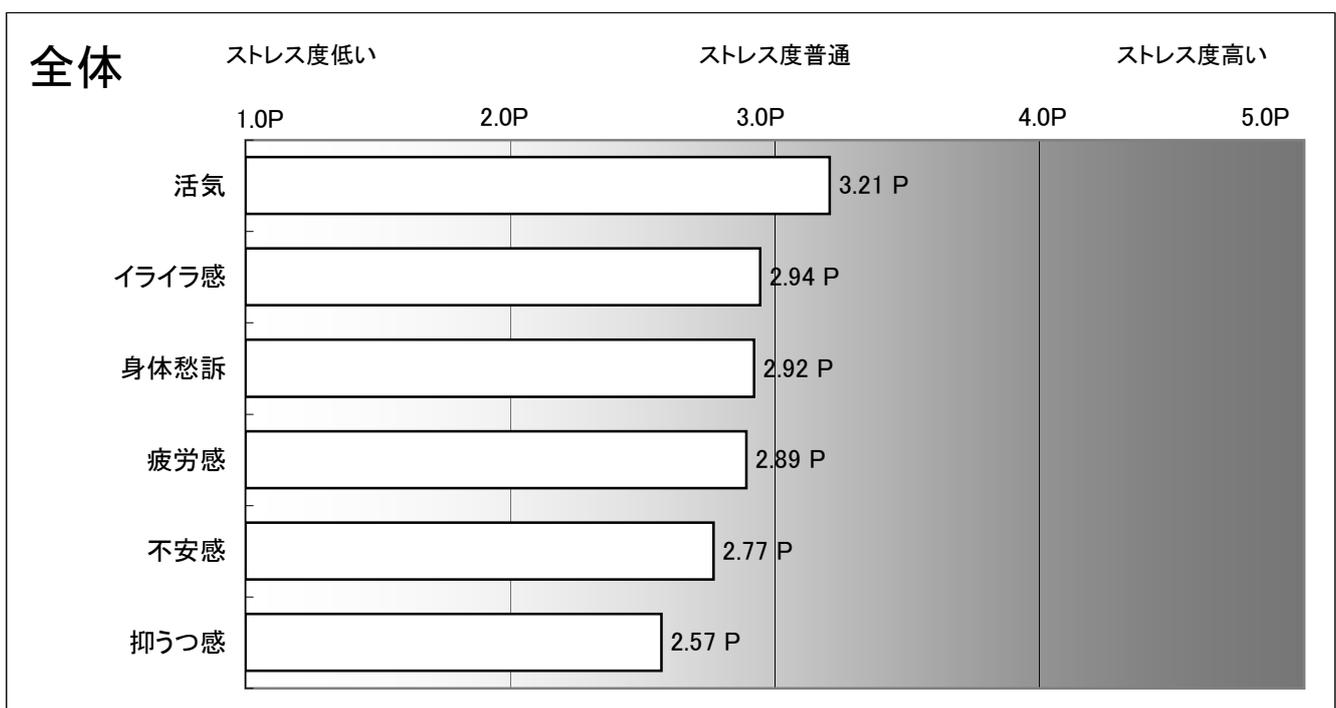
心身のストレス反応として、「活気」・「イライラ感」・「身体愁訴」の項目の順にストレス度合いが高くなっています。(表6・図8参照)

ストレスによって起こる心身の反応因子 項目別評価平均値集計 表6

	活気	イライラ感	疲労感	不安感	抑うつ感	身体愁訴
男性	3.25 P	2.95 P	2.91 P	2.79 P	2.60 P	2.95 P
女性	2.35 P	2.76 P	2.59 P	2.29 P	2.06 P	2.35 P
全体	3.21 P	2.94 P	2.89 P	2.77 P	2.57 P	2.92 P

心身のストレス反応因子 項目別評価平均値集計 (実施者全体)

図8



● 性別による心身の反応因子集計

男性は「活気」・「イライラ感」・「身体愁訴」の項目の順にストレス度合いが高くなっています。(図9参照)

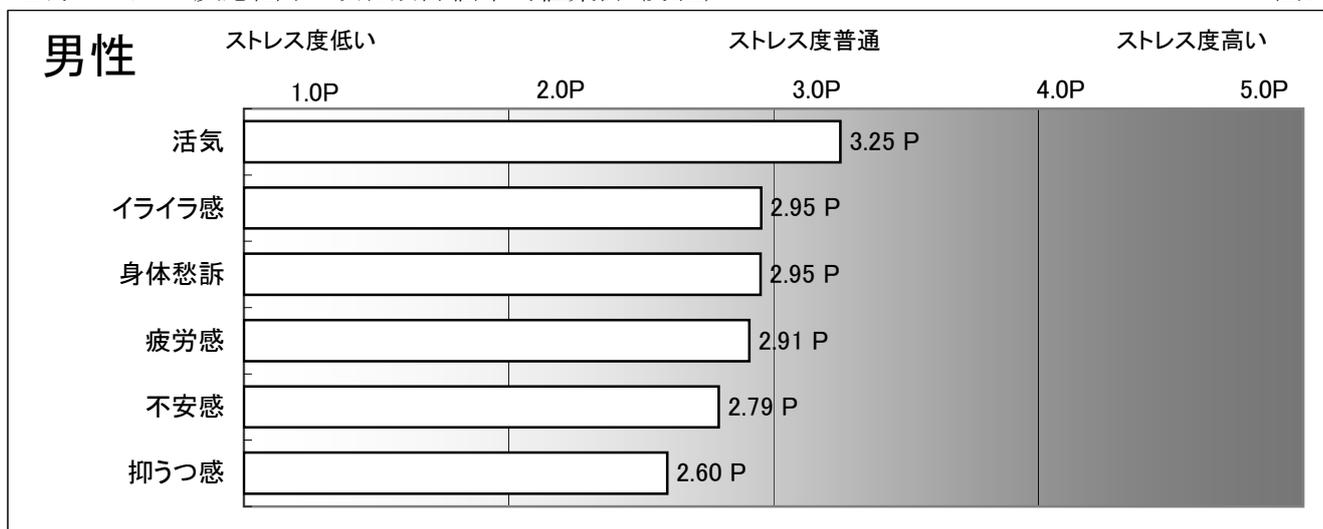
女性は「イライラ感」・「疲労感」・「身体愁訴」の項目の順にストレス度合いが高くなっています。(図10参照)

また、男女差を見ると、男性は女性より「活気」の項目に対してストレスを感じています。

一方、男性より女性の方がストレスを感じている項目はありませんでした。(図11参照)

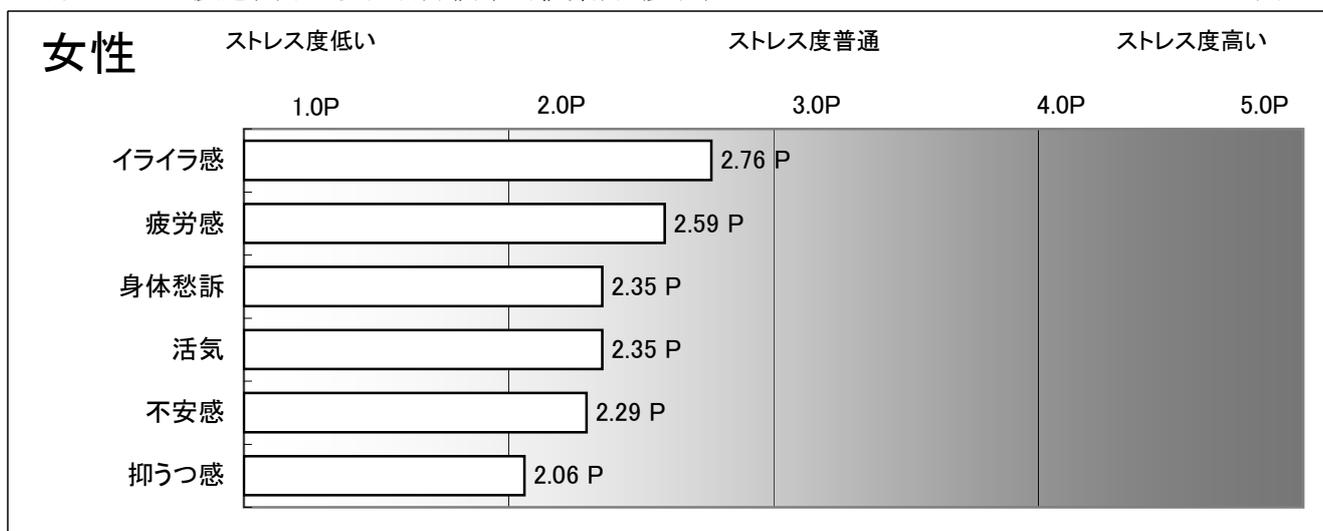
心身のストレス反応因子 項目別評価平均値集計 (男性)

図9



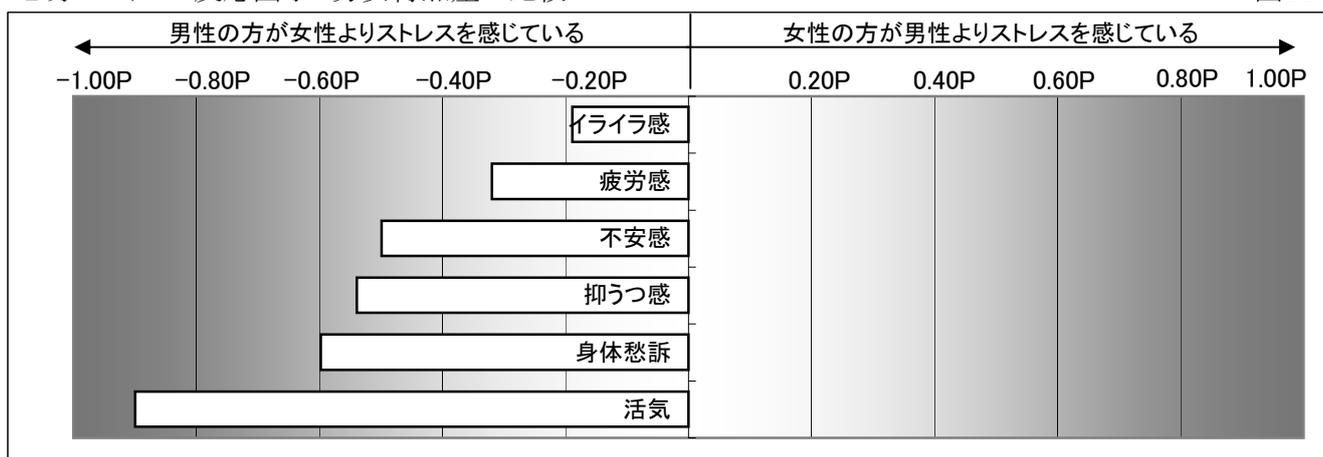
心身のストレス反応因子 項目別評価平均値集計 (女性)

図10



心身のストレス反応因子 男女得点差の比較

図11



5. ストレスに影響を与えるその他の因子(修飾要因)分析

その他の因子(修飾要因)については、サポート状況と満足度の2項目があります。サポート状況は次の3つ、満足度は次の1つの項目で評価されます。

サポート状況の項目	設問No	満足度の項目	設問No
上司からのサポート	③-1・4・7	仕事や生活の満足度	D-1・2
同僚からのサポート	③-2・5・8		
配偶者・家族・友人のサポート	③-3・6・9		

個人に対する評価スケールは5段階となっており、各点数とストレス度合いは下記表7の通りとなっております。

表7

評価得点	5点	4点	3点	2点	1点
ストレス度	高い	やや高い	普通	やや低い	低い

集団集計は上記表7に従い算出した個人評価得点を、項目別で平均値算出し集団特性を考察しております。

● ストレスに影響を与えるその他の因子(修飾要因)集計

ストレスに影響を与えるその他の因子として、「同僚からのサポート」・「上司からのサポート」・「仕事や生活の満足度」の項目の順にストレス度合いが高くなっています。(表8・図12参照)

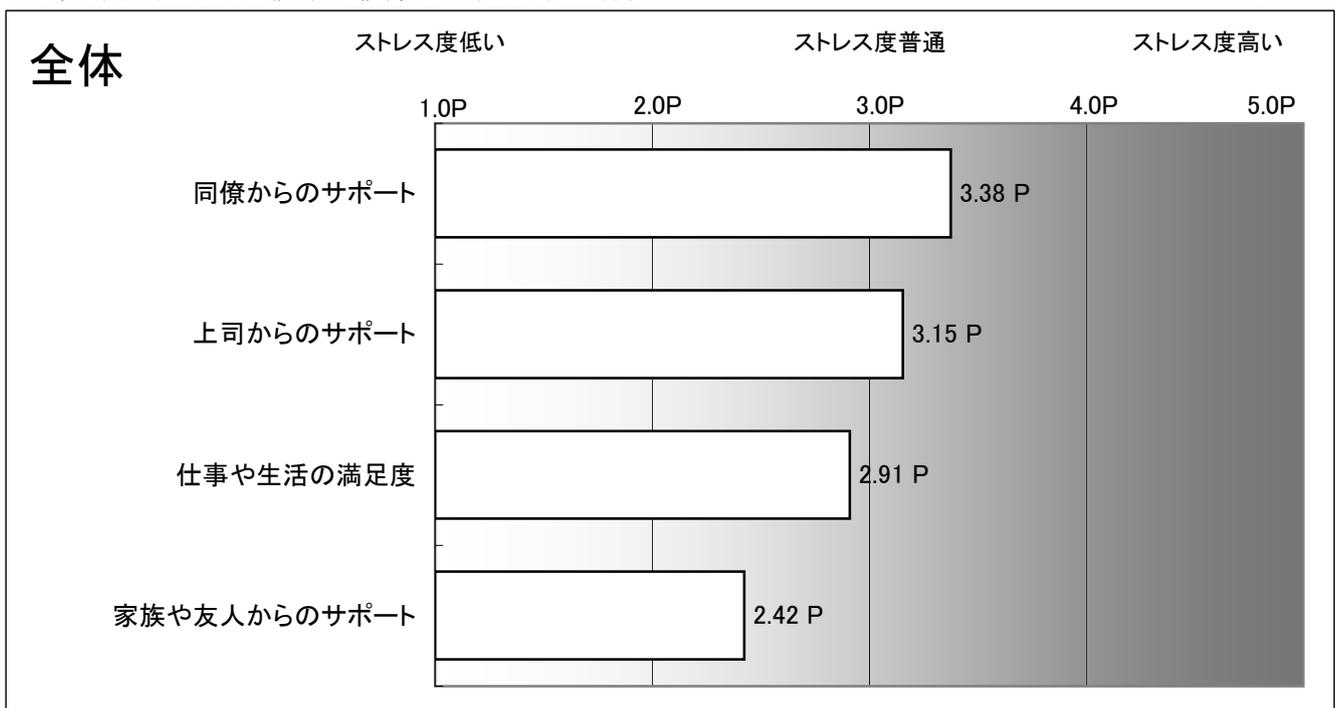
修飾要因 項目別評価平均値集計

表8

	上司からのサポート	同僚からのサポート	家族や友人からのサポート	仕事や生活の満足度
男性	3.18 P	3.39 P	2.45 P	2.92 P
女性	2.59 P	3.18 P	1.88 P	2.76 P
全体	3.15 P	3.38 P	2.42 P	2.91 P

修飾要因 項目別評価平均値集計 (実施者全体)

図12



● 性別による修飾要因集計

男性は「同僚からのサポート」・「上司からのサポート」・「仕事や生活の満足度」の項目の順にストレス度合いが高くなっています。(図13参照)

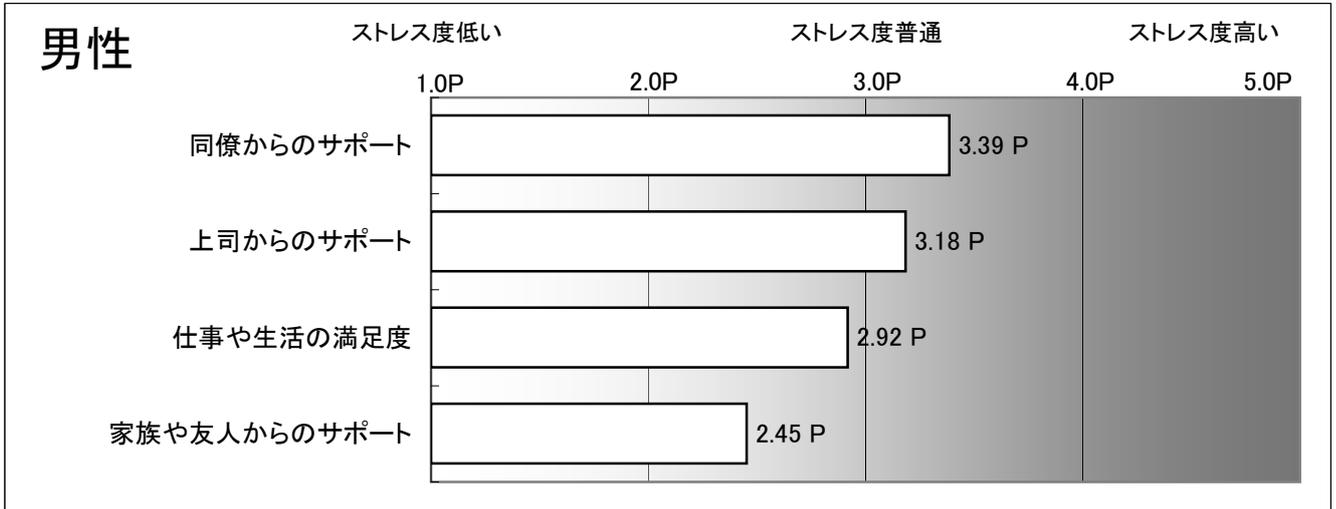
女性は「同僚からのサポート」・「仕事や生活の満足度」・「上司からのサポート」の項目の順にストレス度合いが高くなっています。(図14参照)

また、男女差を見ると、男性は女性より「上司からのサポート」の項目に対してストレスを感じています。

一方、男性より女性の方がストレスを感じている項目はありませんでした。(図15参照)

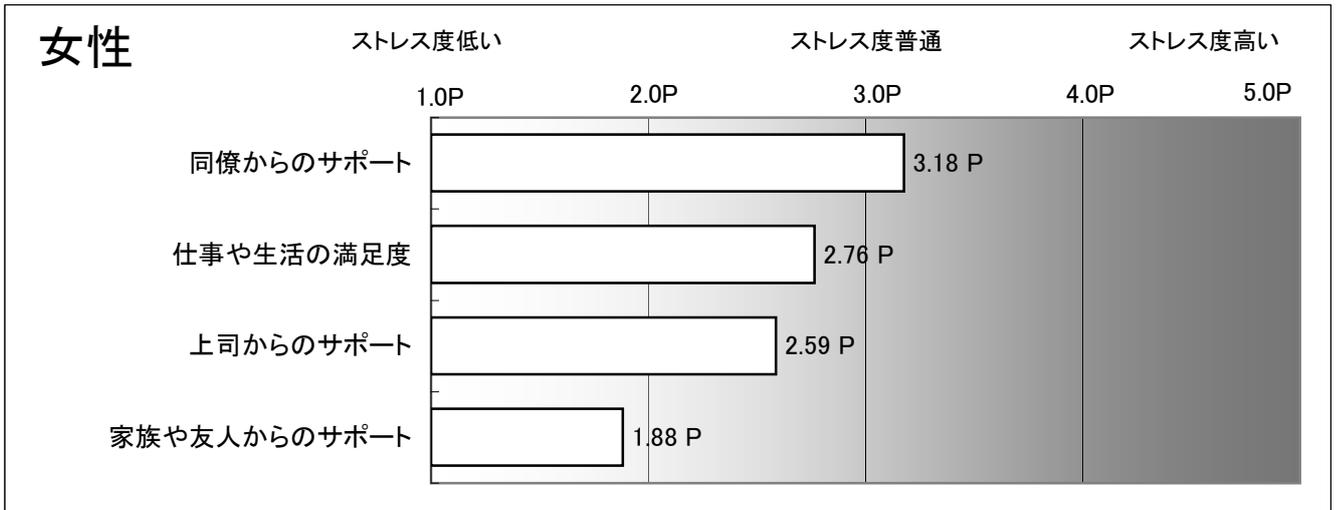
修飾要因 項目別評価平均値集計 (男性)

図13



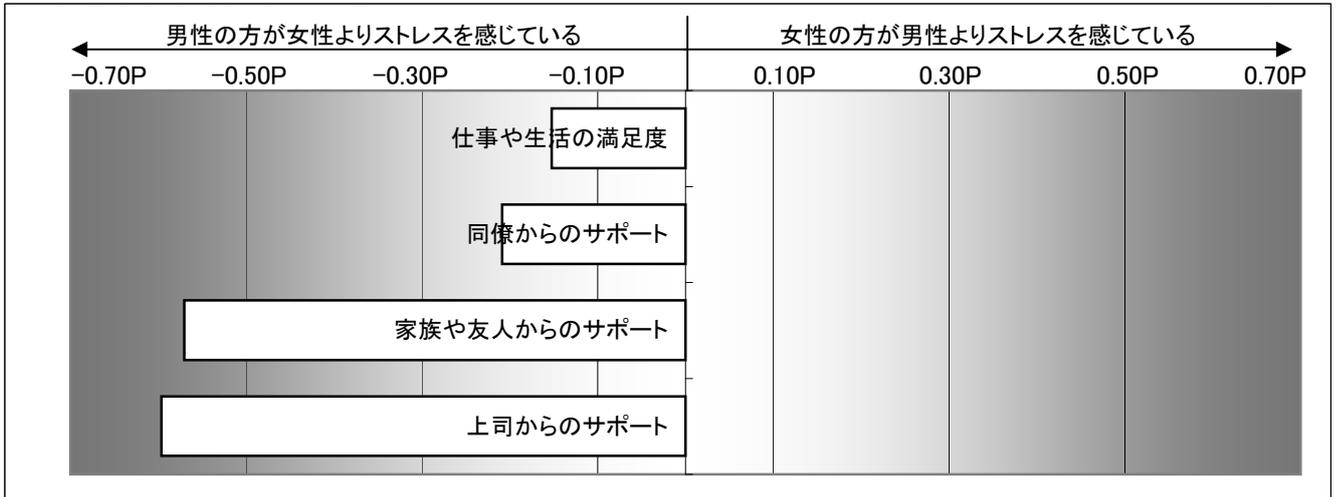
修飾要因 項目別評価平均値集計 (女性)

図14



修飾要因 男女得点差の比較

図15



6. 年代別分析

● 年代別 総合平均・各因子平均

年代別の総合判定を見ると、30歳代を中心とした中高年層でストレスを感じている方が多くなっています。

また、各因子平均についてみると、原因因子(ストレスの原因となる職業性の因子)については30歳代が最も高く、次いで40歳代でストレスを感じている方が多くなっています。

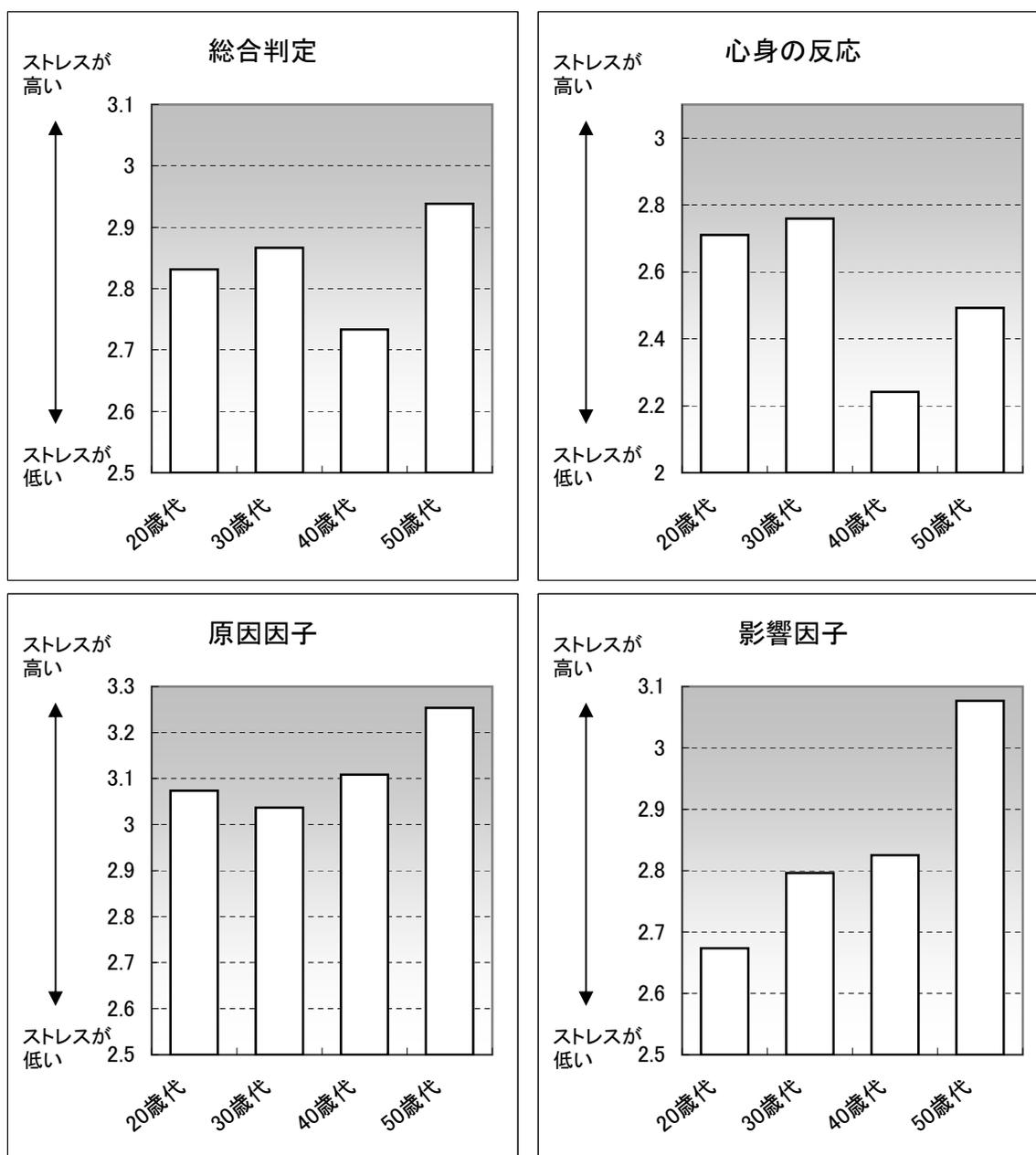
心身の反応因子(ストレスによる心身反応)は20歳代で顕著にストレスを感じる方が少なくなっています。

また、影響因子(コミュニケーション・サポート・満足度)についても20歳代のストレスが顕著に低く、年代が上がるに連れストレス度が多くなっています。(図16参照)

年代別総合平均・各因子平均の集計

図16

※ n値が少ないため、10歳・60歳代は除外

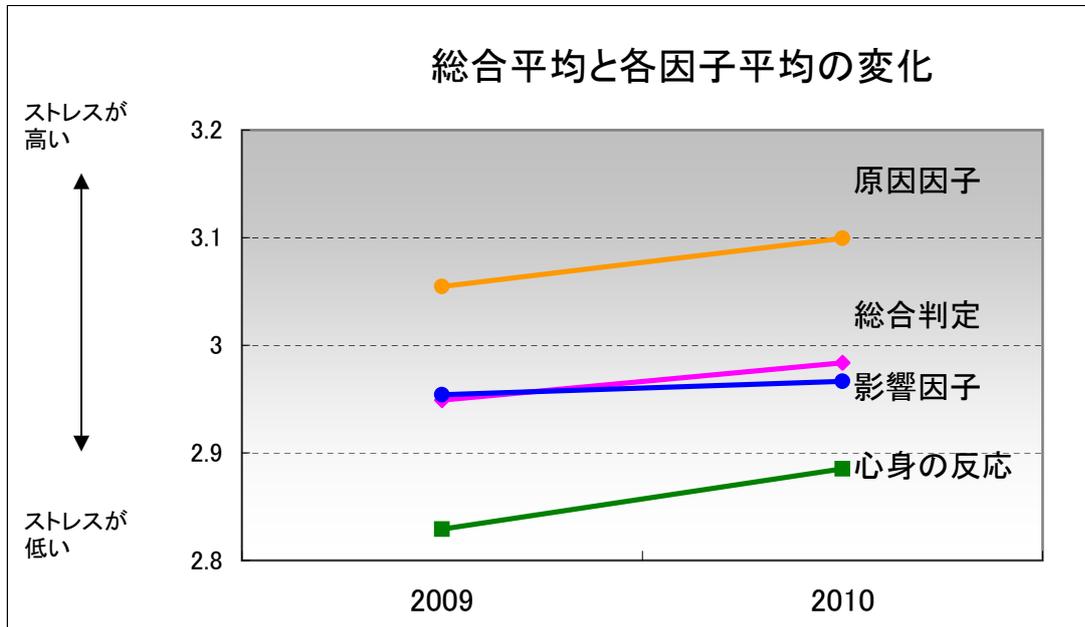


7. 経年変化分析

● 総合平均・因子別の変化

総合判定・原因因子・心身の反応因子・影響因子のすべてにおいてストレスが微増している状況です。
(図17参照)

図17

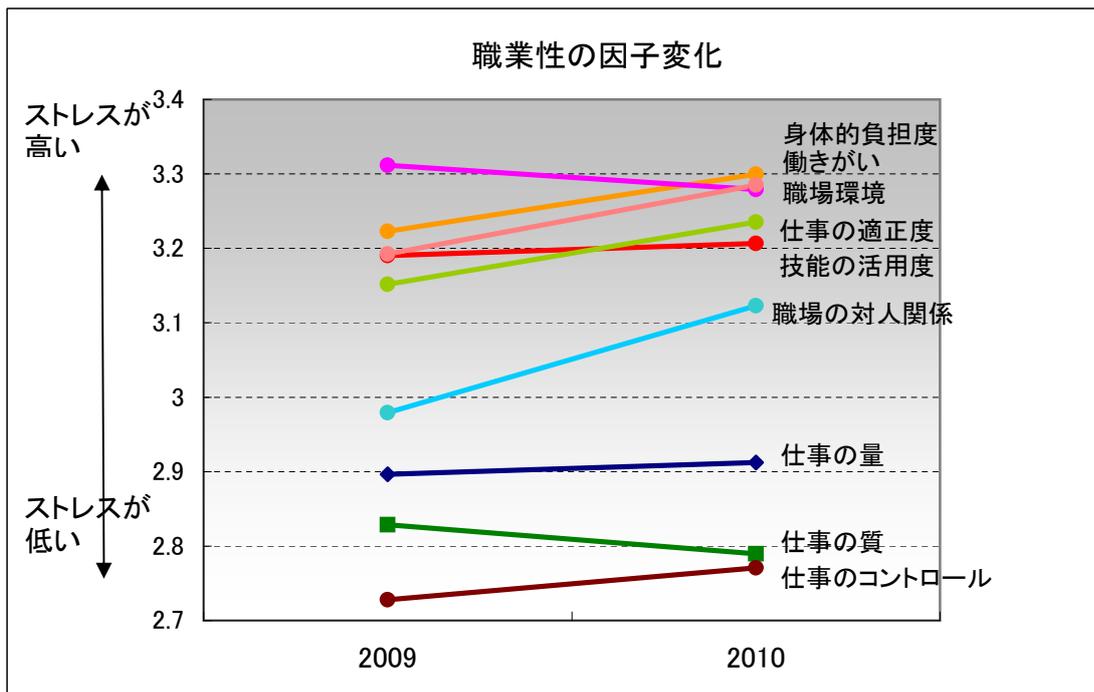


● 因子別の変化(職業性の因子)

職業性因子では「身体的負担」・「働きがい」・「仕事の適正度」・「職場の対人関係」・「仕事量」・「仕事のコントロール度」の項目でストレスが増加しています。
中でも「職場の対人関係」の項目で顕著に増加しています。(図18参照)

職業性因子項目別経年変化集計

図18

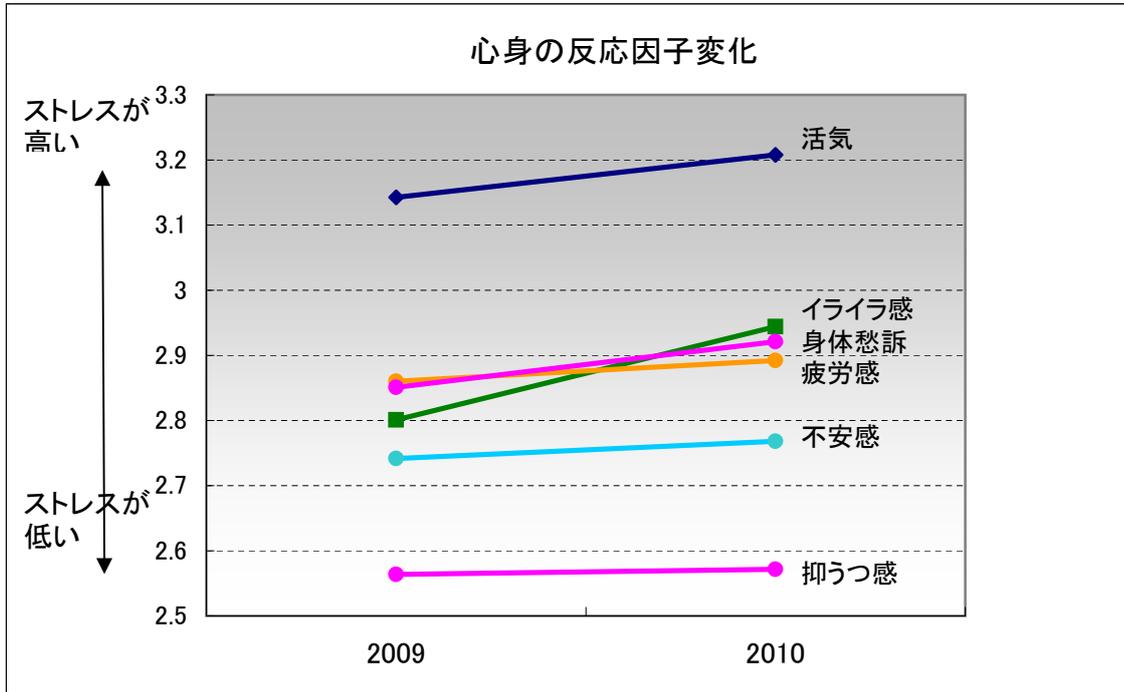


● 因子別の変化(心身の反応因子)

心身の反応因子ではすべての項目でストレスを感じている方が増加しています。中でも、「イライラ感」の項目で最も増加幅が大きくなっています。(図19参照)

心身の反応因子経年変化集計

図19



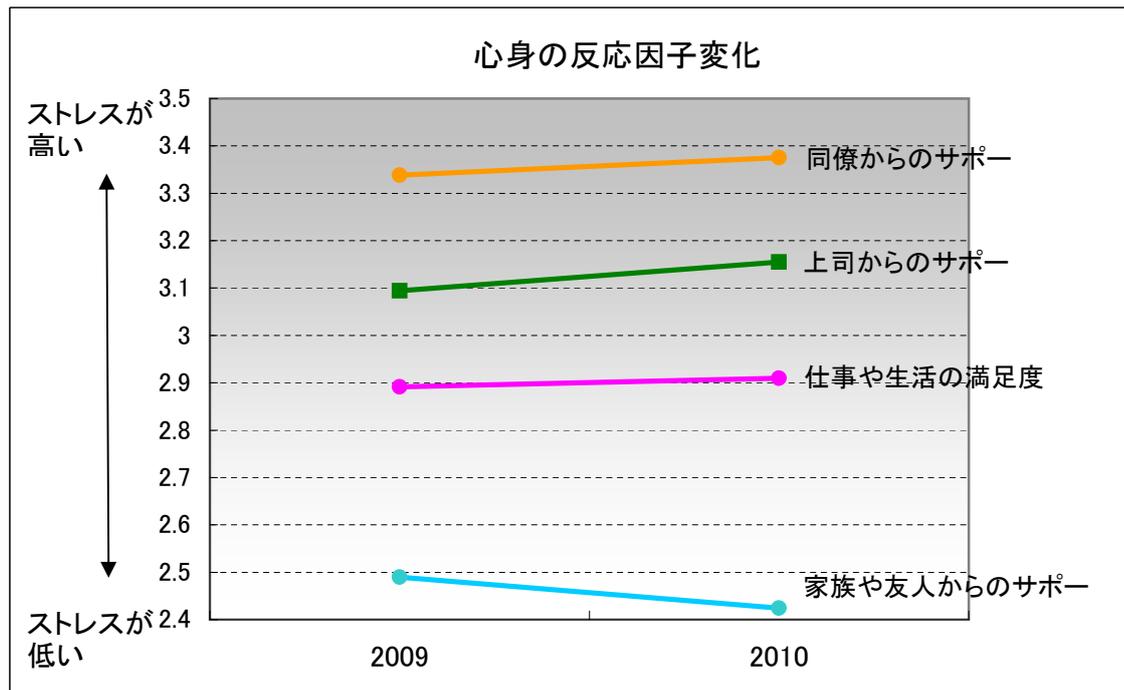
● 因子別の変化(修飾因子)

修飾因子では「家族や友人からのサポート」の項目でストレスを感じている方が減少している他は、ストレスが微増している状況です。

中でも、「上司からのサポート」の項目で増加幅が最も大きくなっています。(図20参照)

修飾因子経年変化集計

図20



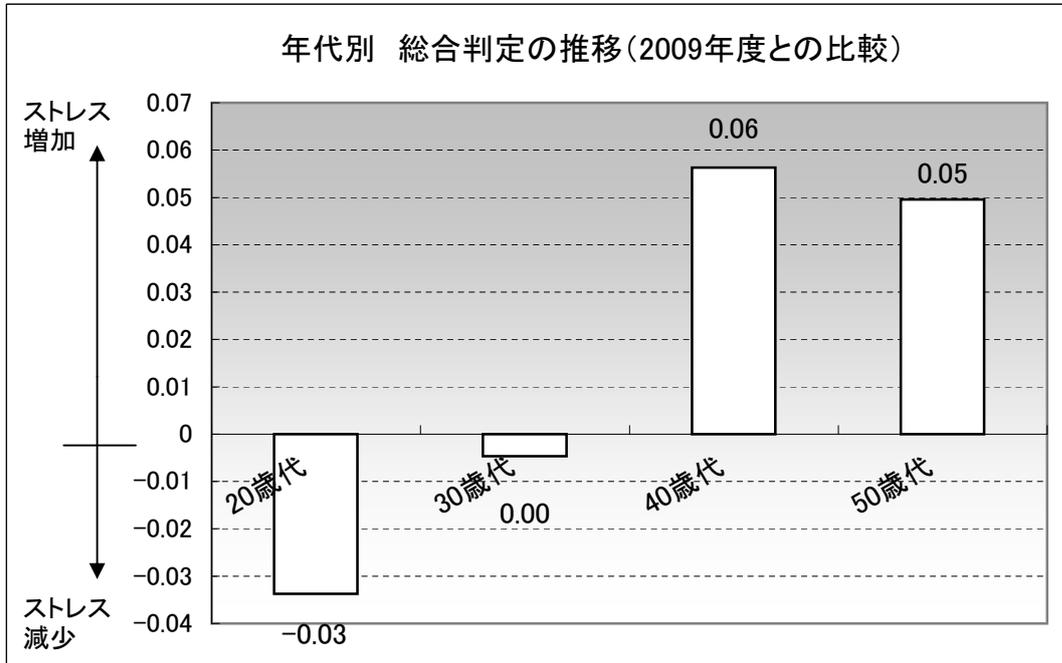
● 年代別総合平均の変化

昨年2009年度との総合平均を比較すると、20歳代で最もストレスを感じている方が微減しています。30歳代は横ばい、40歳以上の中高年層でストレスを感じる方が微増しています。(図21参照)

年代別総合平均の変化集計

図21

※ n値が少ないため、10歳・60歳代は除外



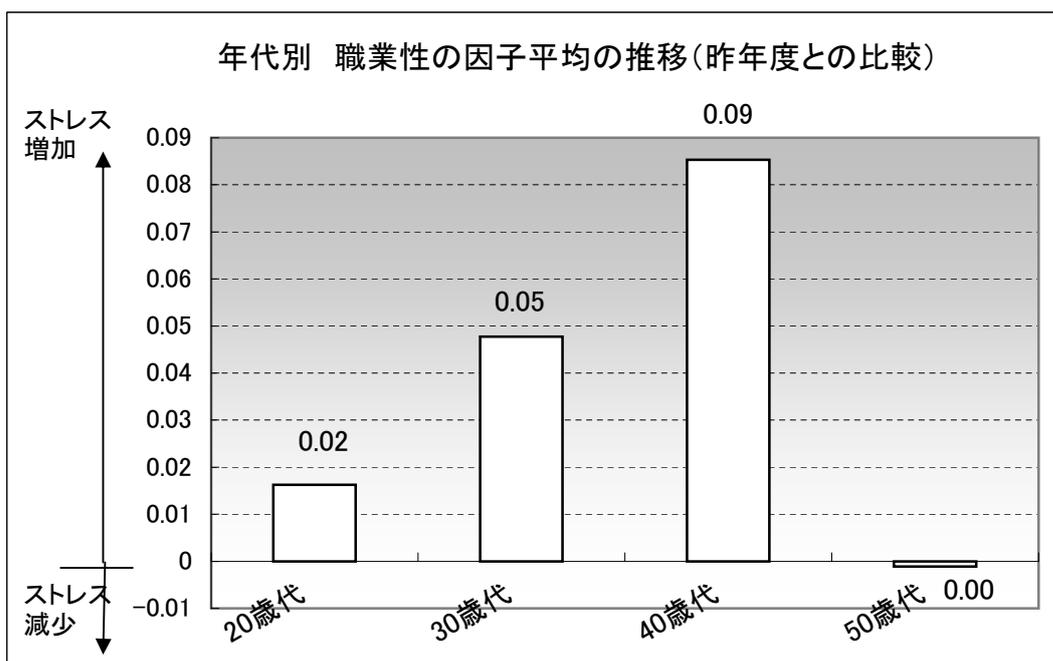
● 年代別職業性の因子平均の変化

昨年2009年度との職業性の因子平均を比較すると、20～40歳代の年代層でストレスが微増しています。中でも40歳代でストレスが微増しています。(図22参照)

年代別職業性の因子平均の変化集計

図22

※ n値が少ないため、10歳・60歳代は除外



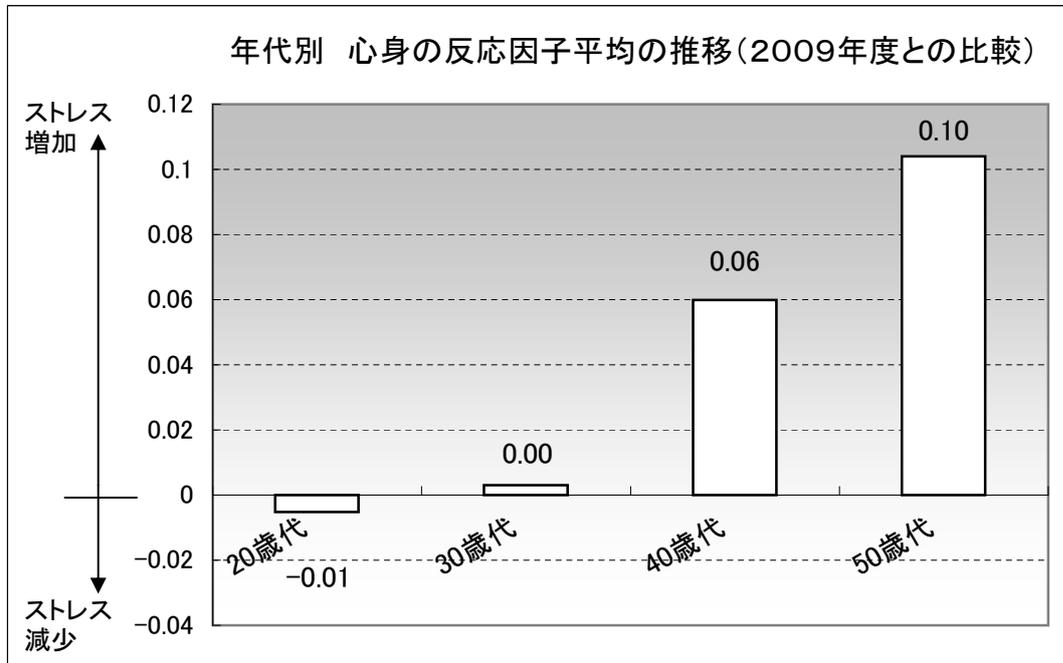
● 年代別心身の反応因子平均の変化

昨年2009年度との総合平均を比較すると、40歳代以上の中高年層でストレスが微減しています。20歳代～30歳代の若年層ではほぼ横ばいの状況です。(図23参照)

年代別心身の反応因子平均の変化集計

図23

※ n値が少ないため、10歳・60歳代は除外



● 年代別修飾因子平均の変化

昨年2009年度との修飾因子平均を比較すると、20～30歳代でストレスが微増しています。50歳代では最もストレスが微増しています。(図24参照)

年代別修飾因子平均の変化集計

図24

※ n値が少ないため、10歳・60歳代は除外

